

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

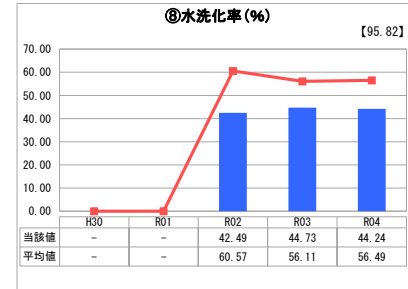
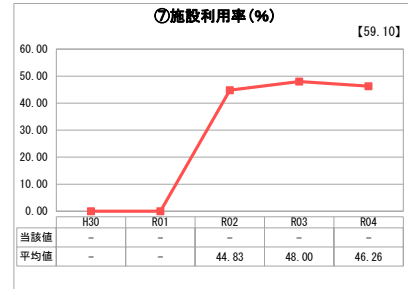
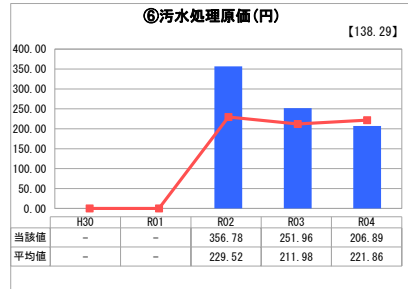
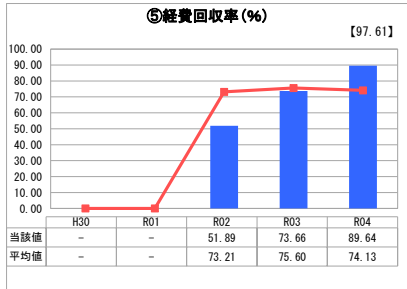
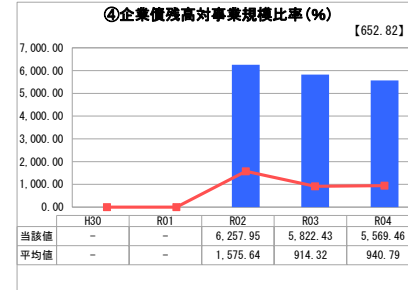
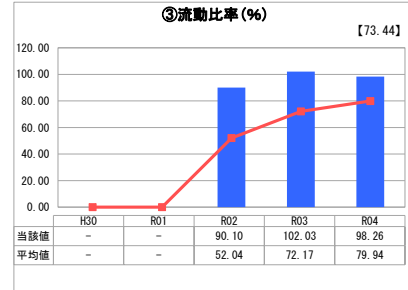
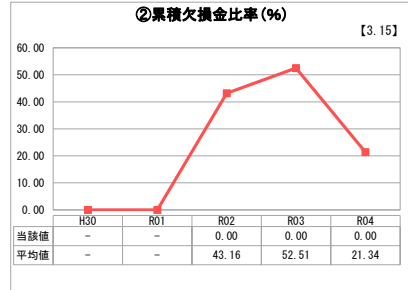
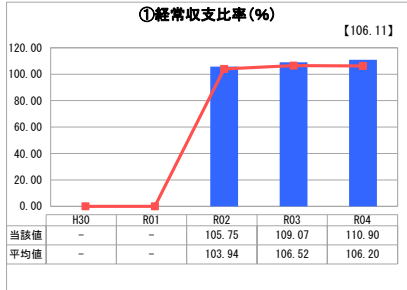
徳島県 鳴門市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 <sup>m</sup> 当たり家庭料金(円)
-	55.19	11.65	107.03	4,158

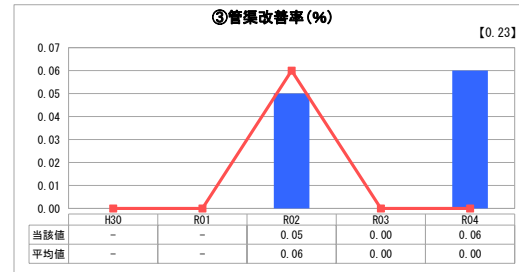
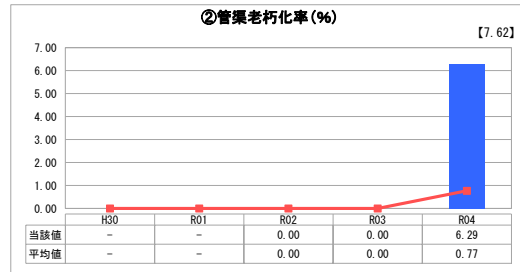
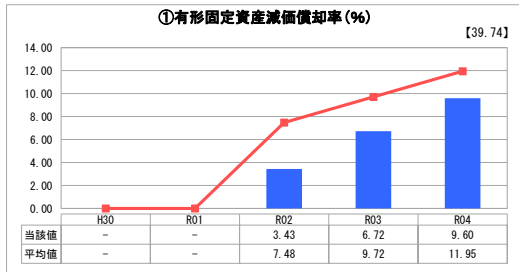
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
54,746	135.66	403.55
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,336	1.95	3,249.23

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

鳴門市の公共下水道事業（污水）については平成21年より供用を開始し、管渠築造等の建設投資を毎年行っている。また、令和2年度より公営企業法を適用したことで、以前より詳細に財務状況を分析可能となった。

令和4年度末現在の水洗化率は44.24%で依然として低水準にあり、処理区域内の下水道への接続率向上が課題となっている。そのため、現時点では使用料収入が少なく、維持管理費が使用料収入を上回っているが、他会計繰入金により、経常収支比率は100%を超えている。

また、事業開始から日が浅いため、企業債残高が多く、企業債残高対事業規模比率はあまり芳しくないが、今後、管渠築造工事が完了すれば改善が見込まれる。経費回収率及び汚水処理原価についても、現在の使用料収入では平均値より劣る数値であるが、こちらも供用開始区域の拡大や民間委託を活用した下水道接続の普及促進を継続して行うとともに必要に応じて接続助成金の見直し等の検討・実施を行うことに加え、常に事業規模に応じた経費の削減に取り組むことにより、維持管理収支の改善を目指すとしている。

上記のとおり、経営の健全性・効率性については、使用料収入を増やし、経費削減に取り組むことにより、徐々に改善していると考えられるが、各指標が示すとおり、当面厳しい経営状況は続く見込みである。

### 2. 老朽化の状況について

公共下水道事業（污水）については平成13年より事業を開始し、経過年数も少ないため、更新や修繕等が必要な管渠の老朽化は見られない。

公共下水道事業（雨水）については、更新や維持補修が必要な管渠が多いため、長寿命化計画を策定し、平成24年度より計画的に更新や維持補修を行っているが、今後、老朽化率は上昇する見込みである。

## 全体総括

公共下水道事業（污水）については、事業開始からの経過年数が少ないため、管渠等の老朽化の問題は発生していないが、新設に係る建設改良費が大きいことや高額の企業債元利償還金の負担で、経営状況は厳しい状況が続いている。今後は接続率向上による使用料収入の増収が課題である。

公共下水道事業（雨水）については、管渠等の老朽化が進んでいるため、計画的に更新や維持補修を行っているが長期の年数が必要となる見込みである。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。